



2021.11.29_Ashikaga

中島康夫写真展

Phase

フェーズ 位相→相 [足利・武蔵野]
Ashikaga, Musashino

2022.4.27 wed. – 5.8 sun.

artspace
&
café



2021.04.27_Musashi-sakai



2021.09.03_Around Kichijoji



2021.05.21_Ashikaga



2021.08.20_Ashikaga

私は、武蔵野の一隅に60年以上暮らしている。元々三鷹に実家があり、国分寺、武蔵境と移り住むが、東京の真ん中の半径5km程の圏内に収まる。足利とはいば、かつての私にとって縁もゆかりもない「遠いところ」であったが、二十数年前に初めて足を踏み入れて以来、仕事の関係でたびたび訪れるようになった。近頃では、仕事以外に何かと口実を作って、足繁く通っている。何故かこの土地に惹かれるのだ。

律令制による武蔵国は、当初東山道に属していた。そのため武蔵国府（現・府中市）と下野国足利との間は、東山道武蔵路という街道があったことを、最近知った。古の人々にとって、一本の道で繋がっていた足利と武蔵野は、今よりずっと「近いところ」だったように思われる。この二つの土地は、同じ「相」の上であり、同じ気脈のようなものによって通じているのかもしれない。

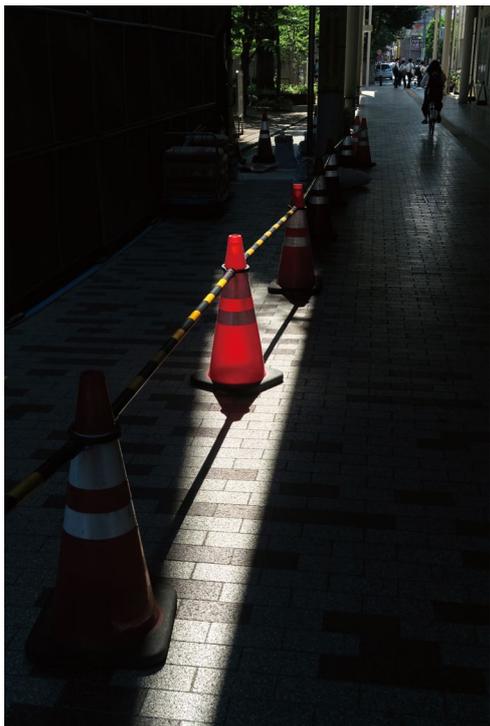
*

「フェーズ」という言葉から、交流電気の波形を、ふと思いついた。交流電気は、X軸（時間）／ Y軸（電圧）のグラフ上に正弦波として現れる。見えない電気を、イメージに置き換えて見せられると、納得する。それなら同様に、他の事物を別の座標系に置き換えてみると、どうなるだろうか？ 例えば、X軸（時間）／ Y軸（存在に関する適当な定義）／ Z軸（長さ）とする座標の上では、あらゆる物も現象も表せると仮定し、その空間に現れた形（イメージ）を、〈相〉と呼ぶことにする。〈相〉は、事物によってそれぞれ違う形として現れるから、そこから本質的なことを取り出せるはずだ。

この仮想の空間において写真を考えてみると、写っている像は、ある時間における〈相〉の断面、痕跡となる。それをここでは、〈位相〉と呼ぶことにする。〈位相〉は、静止した点や線や面の集合ではない。そこには時間が閉じ込められている。もし〈位相〉の時間を取り戻せば、〈相〉のイメージを復元できるはずだ。

おそらく、それを可能にする方法としては、「観る」こと以外にない。そうだとすれば、「観る」こともまた「創造」である。と私は言いたい。

中島康夫



2021.06.10_Musashi-sakai

Phase 中島康夫写真展 フェーズ: 位相→相 [足利・武蔵野] Ashikaga, Musashino

2022.4.27 wed. — 5.8 sun.

11:00—18:00 (最終日は16:00まで)

5月2日 [月]・5月6日 [金] 休廊

*軽食とソフトドリンクもお楽しみいただけます。

東武伊勢崎線足利市駅徒歩12分・JR両毛線足利駅徒歩8分
北関東自動車道足利ICより15分 (駐車場3台・近隣に無料駐車場あります)



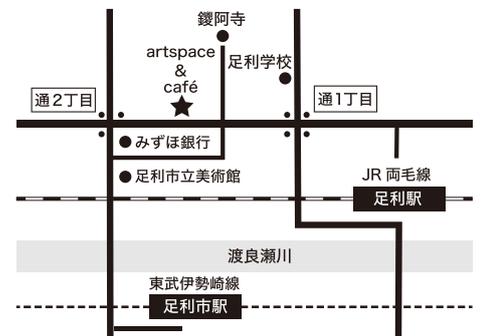
artspace & café

〒326-0814 栃木県足利市通2丁目2658

Tel : 0284-82-9172

E-mail : info@artspace-and-cafe.com

URL : http://artspace-and-cafe-ashikaga.com



*作品についてのお問い合わせは、下記へご連絡ください。



有限会社エムワンデザイン

〒180-0022 東京都武蔵野市境5-4-3 ソレイユ武蔵野101
Tel. 0422-90-1611 E-mail : nakajima@em1.co.jp